

Indymedia

<http://rochester.indymedia.org/node/4703>

## ミアシャイマーのガザ作戦論

John Mearsheimer: Israel's Real Purpose In Its Atrocities in Gaza

(Abstract)

シカゴ大学のジョン・ミアシャイマーは、ガザにおけるイスラエルの無謀な残虐行為の背後にある真の理由について、簡潔な時系列の説明と最も明確な説明を示している\*。

\* "The Israel Lobby and U.S. Foreign Policy" (with Stephen Walt)

### 1. 基本となる「鉄の壁」政策

ミアシャイマーは次のように主張する。

ハマスの勢力を弱めたり、ロケット弾を止めたりすることは、イスラエルにとって副次的な目標ではない。

イスラエルの中心的な目標は、歴史的に規定されたパレスチナ全域を支配するということである。

そのために、「鉄の壁」政策を通じてパレスチナの人々を永久に服従さ

せ、パレスチナの土地、空気、水、国境・海、経済のすべてをイスラエルが支配し、それを将来にわたって確実にしようとするのである。

### 2. 「鉄の壁」政策は達成できない

ミアシャイマーは、この目標は達成できないと指摘する、ましてや、パレスチナ人に対する全面戦争という残忍な方法によって達成することはできない。

イスラエルが多少なりとも成功したように見えても、そこに生起する結末は恒久的なアパルトヘイトではない。

そして、それ自体が、排外主義的な「ユダヤ人国家」としてのイスラエルを破滅させるだろう。そしてその人種差別的な国家イデオロギーである「シオニズム」を破滅させるだろう。

## 【参考】

シカゴ大学政治学教授、ジョン・J・ミアシャイマー「もう一つの戦争、もう一つの敗北—アメリカの保守派へ」(January 26, 2009) より

イスラエル人とアメリカ国内のイスラエル支持者たちは、2006年の悲惨なレバノン戦争から教訓をよく学び、ハマスとの現在の戦争に勝利する戦略を考案したと主張する。もちろん、停戦が実現すれば、イスラエルは勝利を宣言するだろう。しかしそのような言葉を信じてはいけない。それは決して勝つことのない戦争であり、イスラエルは愚かにも、その戦争をまた始めたのだ。

### 3. ガザでの作戦には2つの目的があるとされる

1) パレスチナ人がイスラエル南部にロケット弾や迫撃砲による攻撃を止めさせること  
それは2005年8月にイスラエルがガザから撤退して以来、続いている。

2) イスラエルの抑止力に対する威信を回復させること

レバノンでの大失敗、ガザからの撤退、イランの核開発を阻止できなかったことでイスラエルの抑止力は低下したと言われる。

### 2008年の対ガザ作戦

しかし、これらはキャスト・リード作戦の真の目的ではない。

(The Gaza War 2008–2009, also known as Operation Cast Lead)

実際の目的は、イスラエルが数百万人のパレスチナ人とどのように共存していくかという長期的なビジョンと結びついている。

イスラエルの指導者たちは、かつて委任統治領として知られていたパレスチナ（ガザとヨルダン川西岸を含む）全域を支配する決意を固めている。

パレスチナ人は、切り離された経済的に不自由な一握りの飛び地で、限られた自治権を持つことになる。そのひとつがガザである。

イスラエルはその周辺の国境、飛び地間の移動、上空と地下・水域を支配することになる。

このような大イスラエル構想を実現する鍵は、パレスチナ人に大きな苦痛を与えることである。

その結果として、イスラエルが彼らの未来を支配するという事実を受け入れさせることである。

この戦略は「鉄の壁」(Iron Wall)と呼ばれている。1920年代にジャボチンスキーが初めて提唱したもので、1920年代以降のイスラエルの政策に大きな影響を与えてきた。

ガザで起きていることは、この戦略に完全に合致している。

紹介はここまで